



恩師長倉三郎先生の思い出

Shunji KATSUMATA 勝又春次 長光会、いわき明星大学名誉教授

長倉先生が三鷹市のケアハウスで1人余生を過ごされているとお聞きし、2019年12月4日に吉田隆さん(1年後輩で長光会のカメラ担当)と私ども夫婦でお尋ねしました。姪御の宍倉さんの付き添いの下、お会いできました。比較のお元気でおられましたので、話が盛り上がりました。私たち夫婦が先生に仲人を頼み、結婚したのが50年前で、その年が金婚式だったこと、妻が写仏を始めて15年で、観世音菩薩を描いたものをお届けしました。白寿になった先生は百寿までは大丈夫でしょうと元気な姿を見せておられましたが、それから4ヵ月後に逝去されてしまいました。

私は本郷の化学教室で藤原鎮男教授の下で卒業研究を進め、大学院進学をどうしようかと考えたとき、量子化学に興味を感じ、東京大学物性研究所の長倉先生の研究室を志望しました。

同期生は今では2人とも故人となりました宇田川康夫教授(東北大学)と野上隆教授(大阪大学)との3名でした。当時の長倉研には先輩が毎年3名ずつ進学しており、院生が11名となって活発な楽しい毎日でした。修士課程のテーマは分子の電子状態・分子軌道論などで「ニトロベンゼン負イオンの電子スペクトル」でしたが、負イオン作成が難しく、窪田種一さん(塩野義研)に大変お世話になりました。

余談になりますが、物性研究所内でパートナーを見つけ結婚した方が多かったと思います。妻も中嶋貞雄教授(理論物理)の秘書をしておりました。後でわかったことでしたが、長倉先生も中嶋先生とともに静岡県立沼津東高校(旧制沼津中学)出身で私の大先輩になります。高校には長倉先生の文化勲章受章の記念碑があります。

長倉先生との話の中で「随所に主となれ」との激励の言葉がありました。私は駒場寮の2年間、坐禅をする陵禅会(静岡県三島市の白隠禅師ゆかりの専門道場龍沢寺の中川宋淵老師に師事)に居りましたので、その法話の中で聞くことしばしばでした。長倉先生は出身地から白隠禅師の生誕した松蔭寺をご存知のはずで、坐禅の経験もあったかと推察した次第です。

1968年博士課程1年の夏頃、木村克美教授(長倉研で助手を経験)が北海道大学応用電気研究所の機器分析室に着任し、助手採用の際、長倉先生の推薦があって私が採用されました。そこでの研究テーマを決める手立てになったのは、長倉先生が国際学会から帰ってきた際の報告ゼミで「He共鳴線を使う光電子分光がイギリスで開発された」と話されたのを思い出し、木村先生にそれを提案しました。この分野でも長倉先生の支援があったのでしょうか。日本分光(株)が高分解能紫外光電子分光装置を完成し市販したお陰で、研究を進展でき、博士論文を提出できました。私が助教授になった年に木村先生は郷里岡崎市に長倉先生を中心に設立された分子科学研究所に移られました。私は1987年に北大でお世話になった馬場宏明教授の退官を機に、福島県いわき市に開校したいわき明星大学に教授として着任、26年間奉職して、現在いわき市にて自適な生活を過ごしています。

このように私を育てて下さった恩師長倉三郎先生と2020年10月21日に急逝された木村克美先生に言葉に尽くせぬご恩をいただきましたことに深く感謝申し上げます。

© 2021 The Chemical Society of Japan



長倉先生写真館



1966年4月(提供:林久治)